

先進事例の視察を支援しています

「集落営農」？ 何となくわかるけれど、具体的なイメージがわからない！……

このような声をよく聞きます。やはり、集落営農に取り組んでいる事例を実際にみて、地元の方にお話を聞くことが、理解するための一番の近道ともいえます。具体的に、集落営農の計画がない場合でも、先進地研修は近い将来役立つと思います。

集落・水田班にお問い合わせいただければ、各集落に参考になると思われる代表的な先進事例地域をご紹介します。視察研修のお手伝いをいたします。

また、現地まで出かけていくことが困難な場合には、先進事例の活動内容を収録したビデオテープもあります。集落営農に取り組んだ現地の方たちの声が、わかりやすく収録されていますので、集落やグループでの研修会などで、ご活用ください。

<< 県内の集落営農先進事例の一部 >>

活動の特徴	市町村	集団名
特別栽培米の生産とライスセンターの経営	杵築市	(農)南俣水里の農場
圃場整備を機に認定農業者不在の地域での活動	大分市	(農)上詰アグリドリーム
中山間地域で共同機械を導入しての協業経営	由布市	(農)ゆのきナチュラルファーム
農地の集約と一元管理。「紫草」をテーマとした活動	竹田市	(農)紫草の里営農組合
一集落一農場型。法人が集落の水田を全て管理	豊後大野市	(農)いわど
高齢化、認定農業者不在の地域での農地の維持管理	豊後大野市	(農)みしま
集落の担い手を中心となり、集落の水田を管理	豊後大野市	(農)オペライスみらい
期間借地による麦・大豆の生産。加工部門を別途法人	豊後大野市	(農)ゴールドファーマー
ライスセンターを中心とした全戸参加の集落営農法人	中津市	(農)榎木集落営農組合
定年帰農者で設立した集落営農組織	中津市	馬場営農組合
大規模稲作農家と共存した集落型法人	宇佐市	(農)橋津営農組合よりもの郷

<< 所蔵ビデオテープ一覧 >>

21世紀型地域営農挑戦シリーズ		
・二階建て地域営農システムで農地・人の高度活用	: 久留米市(農)八丁島営農組合	
・「1集落1農場」で地域営農ビジョンの実践へ	: 甲賀市(農)酒人ふぁーむ	
・集落法人が守る、中山間地の農地・むら・暮らし	: 東広島市(農)重兼農場	
・集落ぐるみの法人化で定年帰農者・女性が担う地域営農	: 秋田県 アグリ檜山、他	
・担い手型特定農業法人がアグリビジネスの新時代を拓く	: 石川県 (有)すえひろ	
・むらの「小さな農協」が田んぼを守り、村人を増やす	: 島根県(農)おくがの村	
集落営農支援シリーズ		
・集落営農先進地からのメッセージ	: 黒部市 寺坪	(事例編1巻)
・農地と村を守る未来創造法人	: 福島県昭和村 (有)グリーンファーム	(事例編2巻)
・大型農家が元気になる集落営農戦略	: 北海道(農)グリーンウェーブ西仲、等	(事例編3巻)
・地域で育てる広域型担い手法人	: 滋賀県:(株)グリーンちゅうず、等	(事例編4巻)

作成・発行 大分県集落営農推進西部支部

大分県西部振興局農山村振興部

TEL: 0973-22-2585 FAX: 0973-23-2219

集落営農かわら版

平成20年2月15日 VOL. 6

大分県集落営農推進西部支部

大分県西部振興局農山村振興部

日田集落営農組織連絡会 玖珠九重集落営農組織連絡協議会 設立

西部振興局管内では、続々と集落営農組織が設立されていますが、設立後、実際に運営に携わると、様々な課題や疑問点が出てきます。

そこで、他の集落営農組織の運営状況など、お互いに情報を交換することで、組織運営に役立てていくことを目的として、集落営農組織の連絡協議会が設立されました。

この連絡会では、情報交換を行いながら、協議会運営上の問題点などの解決を図っていくとともに、ゆくゆくは、省力・低コスト化をさらに進めるために機械装備や労働力の補完など組織間での連携を深めながら、発展的な活動を目指していきます。

これまでに、日田、玖珠九重とも2回の情報交換会を行いました。

参加した集落の代表からは、「中山間地域等直接支払交付金の利用方法」、「組織の法人化に当たっての考え方」、「労働力確保が難しい」などの問題点や、自分の集落での解決方法や考え方など、活発な意見が交わされました。

今後とも、各集落営農組織の連携と運営強化の一環として、活発な活動が期待されます。

西部地区集落営農組織経営研修会を開催

西部地域では、地域農業の高齢化、担い手不足へ対応するため、法人組織、任意組織を併せて34の集落営農組織が設立されています。大分県集落営農推進西部支部ではこうした集落営農組織を支援するため、2回にわたって経営研修会を開催し、3回目には税理士さんに個別の相談にのってもらって経営相談会を開催しました。今後も集落営農組織が継続して運営していけるよう、各種支援に取り組んでいきます。

経営研修会(第1回) 平成19年11月27日(火)19:00~ 14組織 23名 参加

経営研修会(第2回) 平成19年12月21日(金)19:00~ 11組織 17名 参加

経営相談会 平成20年1月23日(水)18:00~ 7組織 10名 参加

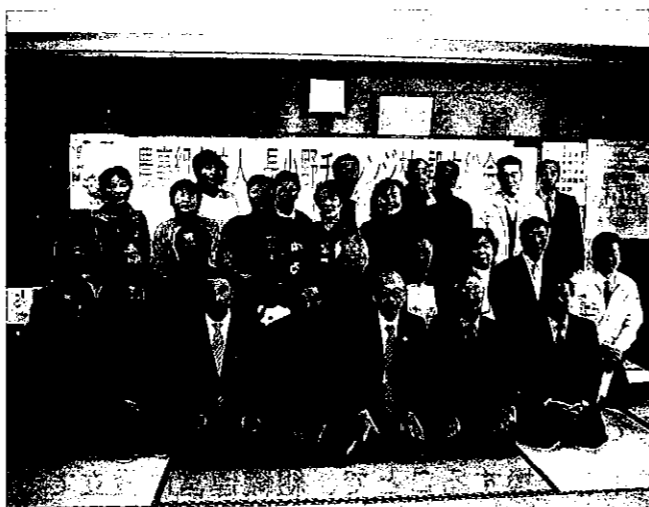
場所: 日田市天瀬振興局別棟3階会議室 講師: 大分県普及協力委員 秋好克則税理士



新規集落営農組織の設立

<< 農事組合法人 長小野チャレンジ村 >>

玖珠町長小野集落では、中山間地域等直接支払制度を契機に平成15年に長小野チャレンジ村推進協議会(構成員14戸)を設立し、共同利用機械による農作業受託や農産物や加工品の直売、鳥獣害対策、農作業体験交流活動等、集落全員が協力して農作業の共同化等さまざまな取り組みを行い、集落の活性化を図ってきました。



今後、長小野においても高齢化や兼業化が更に進行し、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加等が懸念される事から、先進事例研修や学習会を開催し、話し合いを何度も重ね、将来にわたって長小野集落の農業を担っていける組織として、全戸参加による農事組合法人を設立することになりました。

1月27日に長小野公民館で西部振興局の穴井局長、玖珠九重農協の日隈組合長、農業委員会の石井会長、地元選出の松本町議ほか多くの来賓出席のもと設立総会が開催されました。経過説明、定款・事業計画案審議のあと役員7名が選出され、初代組合長に佐々木楠美氏が就任しました。

法人の事業計画として、当初は従来から取り組んでいる農作業受託活動と昨年試作したヤマジノギク(10a)の生産と水稻・もち米の生産をする予定です。将来的には、トキハ玖珠店で行っている直売活動なども法人の経営として取り組む計画です。

<< 泊里営農組合 >>

玖珠町小田地区の泊里集落では、地域の活性化と夢のあるむらづくりに向け、平成15年から中山間地域等直接支払制度を活用し、転作の団地化や共同所有の畦塗り機、トラクターによる農作業受託活動を行ってきました。



来年度は新たに共同利用機械を導入し、事業を拡大することを検討しています。このことを契機に農作業受託部門をステップアップして、農地の高度利用、さらに稲作の低コスト化、新規品目の導入等、農業の持続的な発展を図るための活動を行う事になり、1月26日の中山間協定組合の総会で「泊里営農組合」が設立されました。

(組合長：穴井 進 氏、構成員：21戸)

<< 小竹ホタルの里営農組合 >>日田市津江地域で第1号の営農組合発足!

日田市上津江町の小竹集落では、平成12年度から中山間地域等直接支払制度に取り組み、交付金を活用して集落で共同利用する田植機やコンバインを導入してきました。平成17年度に中山間地域等直接支払制度が第2期対策に移行したときには8割単価でスタートしましたが、平成18年度から集落営農の学習会を開催し、平成19年度から通常単価(10割単価)での申請を行い、「機械・作業の共同化」と「担い手への農作業の委託」という2つの項目で通常単価の要件をクリアすることになりました。

このことを契機として、平成20年1月11日(金)に、「小竹ホタルの里営農組合」を設立しました。今後はこれまで行っていた農業機械の共同利用だけでなく、田植えや防除作業の受託にも取り組み、水稻作業の低コスト化や高齢農家の作業軽減を図っていく計画です。農家戸数7戸、水田面積は約3haという小さな集落ですが、「農地を将来にわたって保全する」「ホタル鑑賞に訪ねてもらえる環境を保つ」「高齢者をいたわり農作業を手伝う若い人を育てる」といった集落マスタープランに掲げた将来像を実現するために、一歩ずつ前進しています。



集落のイメージキャラクターを作ませんか

集落営農組合員の気持ちの拠り所となるような、かわいいマスコットを考えてみませんか?

宇佐市の橋津営農組合では、農業の原点に帰る(カエル)という意味を込め、米ケロ(マイケロ)がマスコットです。組合員は、軽トラにステッカーを貼ったりしています。

日田市の高瀬東部地区営農組合では、三隈川の周辺に農地が展開されているため、カッパをマスコットにしました。直売野菜等にシールを貼って販売しています。

宇佐市の「安心院まつもとイモリ谷」では、集落の地形がイモリに似ていることや井を守る(水を)守ることからイモリがマスコットです。マスコットのおかげで住民相互の連帯感が深まったとのこと。



☆トレードマーク☆
(米ケロ)の願い
集落の農地を守るために、米作りを見直し農業の原点にカエル。